

「浙江大学スプリングスクール派遣参加報告書」

京都大学経済学部・研究科1年 小島 昇馬

- ① 自分は今回のプログラムに参加する前、ただ漫然と第二外国語の中国語を学習していた。なんの目標も持たず、ただ単位が取れば良いと考えていた。スプリングスクールに参加したのも語学力を伸ばすというよりは、せっかく学習したから使う場が欲しいくらいの気持ちであった。しかしプログラム中様々な人々（現地の先生、学生、他国からの留学生）と交流する中で、自分の言いたいことをうまく言葉にできないという場面に何度も出くわした。自分の語学力の低さを痛感させられ、より中国語が話せるように勉強しようというモチベーションが生まれた。今は十分な語学力がつき、資金面をどうにかしたら長期の留学もしたいと考えている。
- ② 今回のプログラムでは、中国語を学ぶ以上に、様々な経験を通して中国そのものについて深く学ぶことができたと感じる。中国の人々は僕たちが困っていたら、すぐに話しかけてきて助けてくれた。中国の公共交通は非常に安価であり、かつシェアサイクルが普及しており、日本ほど自分で自転車を持つ人は少ない。また中国はセキュリティが厳しく、地下鉄や新幹線に乗る時や博物館等に入館するときも荷物検査やボディチェックなどがあるということだ。また自力で長距離バスや新幹線のチケットを購入するなど、将来、自分で中国に来て困ることはないようになったと思われる。
- ③ 中国で語学の授業の他に、中国の文化に触れることのできる、有名な観光地や博物館などに行く機会を得た。また自由時間には上海や蘇州などにも足を延ばし、進んだ交通システムや昔の町並みなどを見物した。また語学の時間に知り合った韓国人留学生や見知らぬ中国人と大学構内でバスケットや卓球などをして交流し、互いの国について理解を深めることができた。語学の授業は精読、リスニング、スピーキングの三種類があり、ほぼ中国語のみで行われ、リスニング力とスピーキング能力の向上を感じた。
- ④ 自分は予めから中国に興味があり、将来は中国などアジア諸国を舞台にして働きたいと考えていた。そのため今回のプログラムでこの希望に変化が生じることはなかった。しかしよりその思いを確かにすることができたという点で大きな影響があったと感じる。それとそうなるには自分にはまだまだスキルが不足しているということも実感した。今後自分の望む進路に進むには何をすべきか今一度考える必要があると思う。